

雑司が谷旧宣教師館だより

第3号

1997年 3月20日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎Fax (03)3985-4081



春の庭には...

春の爛気に誘われて、来館される方が随分と多くなりました。自慢(?)の庭も本番を迎えます。4月の初めには桜が咲き、足元にはフッキソフ、ツルニチニチソフ...と可憐な花々が咲きこぼれます。マッケーレブ来日100年を記念して植樹したハナミズキ(※)も今年で5年目、大分大きくなりました。

四季折々の花々が植えてある旧宣教師館の中庭ですが、やはり春が一番賑わいます。この敷地の中にいったい何種類の花々があるのか教えてあげませんが、

※1992年 5月15日、マッケーレブに縁のあるハリー・ロバート・ファックス・ジュニア氏植樹。彼の父、ハリー・ロバート・ファックスは、1919年宣教師として来日し、マッケーレブ邸に住み教えを受けた。

マッケーレブの
プロフィール 2

前回に続き、『豊島区史』中のマッケーレブに関する記載を紹介します。

この形態を受け継いで明治40年(1907年)10月1日、雑司が谷学院は正式に開院した。

その敷地内には、大正3(1914)年3月10日、雑司が谷教会が開設され、テニスコートを十分つくれる程の広さがある校庭があった。建物は二階建てであったが、マッケーレブはさらに三階の自室を設けて単身で起居し、学生の指導にあたった。ついで教会と学院の東裏に二階建ての宣教師館を設け、布教活動に力をそそいだ。その結果、教会設立後19年間で160名の受洗者があり、当時義務づけられていた警察署へは、会員50名と届け出ていた。明治41年

(1908)フリングマン夫妻から昭和4(1929)年のフィンネット師匠で合計25名の宣教師が雑司が谷学院と教会に滞在し、北海道、茨城、静岡そして府内へと伝道活動のため散っていった。



宣教師館配置図(東京都豊島区立雑司が谷旧宣教師館保存修理工事報告書より)

大正7(1918)年頃、学院在学中であった原島豊之助は、つぎのように当時の学院の様子を綴っている

雑司が谷学院在宿の学生は東京帝大2、東京高商1、早稲田が多くて10人位、その他は美術学校、慶応大学、青山学院等のほか満下さんが英語教師をしていた錦城中学の生徒が4、5人位で、総勢30余名であった。

それぞれ後年一家をなしたが、特に美校在学の安藤照さんは満下さんと同郷の薩摩の人で、渋谷駅前の忠犬八子公の彫造者として知られ、郷里鹿兒島に西郷さんの銅像の遺作がある。朝倉文夫門下の逸材であったが、惜しいことに戦災で亡くなられた。

晴方の東郷鉄四郎さん夫妻の息子さんが、今日の東郷青児さんで自画像や未来派の試作が残って居り、既に有島生馬さんに師事してフランスに渡る前であった。

其の他外交官になった千葉薬さんと武藤義雄さん、武藤さんは後年ユネスコ国内委の事務総長もされた。他の人々もそれぞれ政界財界操縦界に活躍した人が多い(雑司が谷キリスト教会『わが教会の歩み、創立50周年を迎えて』)。裏へ続く

このように、キリスト教精神にもとづく学院生活の中で、多くの有為な人々を輩出した教育機能と同時に、宣教師の基地としての役割を雑司が谷学院とその教会はもっていた。

(『豊島区史』通史編2「第5章 大正アモクラシーと文化」より抜粋)

来館者の声

年間約7千人の方が訪れる旧宣教師館ですが、最近季節のよい春と秋だけでなく、冬場も「歩く会」のグループ等が、見学コースの一つとして利用されています。最近寄せられたアンケートを紹介します。

♡(20代・女・愛知・初めて・ガイドブックで)窓、階段の手すりが見事!

♡(60代・女・池袋本町・初めて)質素でありながら清潔感溢れる当館での、熱心な宣教活動が印象的でした。

◇(20代・女・雑司が谷・広報としま、初めて)私の生まれ育った場所の歴史を初めて知ることができました。ありがとうございました。

♡(40代・男・文京区・新聞で・3回目)素晴らしい道がわかりづらいのが難点。

※ { このようなお声をたびたび耳にします。東池袋(当館)駅周辺フレットを置いていただくなど検討しています。

♡(30代・女・文京区・初めて・建築史関連の書籍をみて)

東京にこのように立派な下見板張りの異人館が、まだ残っているなんて本当に驚きました。建築的に見ても質が高く、復原修理後ということで、コンディションも良く、また歴史的・文化的に見ても大変意味のあるものです。豊島区の文化財であるだけでなく東京の文化財(東京は震災、戦災と経済発展のために古い建物が殆ど残っていませんから)といえると思います。これからも大切にしてください。(「大大学院 建築学専攻」)

ガーデンコンサート ♪♪のお知らせ♪♪

日時: 5月11日(日)午後2時~
場所: 雑司が谷旧宣教師館 前庭
主催: わがまち雑司が谷(無料)
代表: 前島郁子さん
(詳細及び問い合わせは当館まで)

花ごよみ

春風とともに旧宣教師館の庭の花木が、一斉に可愛らしいつぼみをつけはじめました。今回はその中からユリノキを紹介したいと思います。

ユリノキ



3月上旬の芽ぶき

別名	ハルホウキ・ハルホウ片
ミヅ科	落葉高木(最大50M)
	円錐形の樹木
花	5月~6月 緑黄色
	チューリップ形
花茎	5~6cm
葉	淡緑色 秋に黄葉
原産地	北アメリカ

ユリやチューリップに似た花を付けることから、ユリノキやチューリップノキと名がつきました。

旧宣教師館のユリノキはマッカーレブさんが、アメリカより持ってこられたといわれております。樹形花ともに美しいです。花の咲く5~6月頃、是非ユリノキを観賞しに訪れてください。反り目記

図書カード設置します!

児童コーナーには、「赤い鳥」「金の星」「金の船」の複製本その他、大正、昭和初期の児童書等が置いてあります。

付属の事務棟にも約800冊の書籍があります。この建物に因んだ建築関係の本、児童文学に関するもの、文化財、学校史に関するもの等、種類は豊富ではありませんが、旧宣教師館が建てられた時代の文化と、この地域に関わりの深いものが集められています。青少年センター2階の図書コーナー(2階)の図書カードをご覧ください。

※利用に際しては、事務棟までお越しください。

編集後記 記名帳の中に、よくお見かけする名前があります。埼玉県朝霞市にお住まいのO・Iさんです。初回が平成4年5月、6年に9回、7年は2回、今年は7回も来館くださり、本当にありがとうございますO・Iさん! 今度お見えになったら、私たちに是非お声をかけてください。楽しみに待っています。浜地記